

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： ニチイケアセンター黒沢尻・2階ユニット スマイル

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600187		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター黒沢尻・2階ユニット スマイル		
所在地	岩手県北上市さくら通り3丁目18-10		
自己評価作成日	令和元年12月18日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0390600187-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性を重視し、ご希望を出来るだけ聞きながら柔軟な対応が出来るよう努めております。事業所内で行われる行事は御家族へお知らせし参加していただくものもあり、御家族様、入居者様共に楽しんで参加されております。行事内容としては、季節にあった行事を主として、軽作業や、歌や踊り、ゲームと沢山のことに取り組んでおります。また、外出行事では、近くの飲食店や店舗等を利用し、地域とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての2ユニット(1階：一休、2階：スマイル)のグループホームは、北上市の中心市街地である黒沢尻地区にあって、近隣には百貨店やコンビニエンスストア、飲食店等が豊富にあり、子ども神輿も立ち寄り等、地域との交流事業が定例化されている。また、医療機関に恵まれ、連携している訪問看護ステーションの看護師や協力医療機関の医師が定期的に来訪し、利用者の健康管理面は充実している。来年度からは、重度化や看取りへの体制強化に向け、計画的な職員研修を予定している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：ニチケアセンター黒沢尻・2階ユニット スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に職員で話し合った事業所理念を、ホーム入り口に掲示し、ミーティング時に全員で唱和している。	非常勤や系列事業所からの応援の職員も多く、月1回開催している職員ミーティング時には必ず理念を唱和し、管理者は職員に実践状況の問いかけも行っている。2階には、調理室のカウンター上部に理念を掲示しているほか、階段の踊り場に事業所独自の拠点スローガンを大きな文字で掲示し、職員の意識啓発を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアによる歌や踊りの鑑賞会や、子供みこしの受け入れで協力を頂いている。	毎月1回傾聴ボランティアが来訪し、1階と2階の利用者と交互に話をしているほか、複数の踊りの団体や歌唱のボランティアが定期的に来訪し、ユニット合同で鑑賞している。町内会にも加入し、回覧板も回している。秋に開催される地区の文化祭には、法人の支店職員の応援を得ながら車椅子も臨時に手配して、利用者の半数以上が参加するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会などを通して、相談を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	医療関係者からの助言で、体調管理などの知識を得ることによって介護に生かしている。御家族や地域住民からの地域の状況や希望などを聞き、交流の機会を作っている。	運営推進会議には、地域の副区長は毎回出席を頂くほか、事業所周辺の草刈り等の協力も得ている。医療関係の委員が多く、利用者の体調管理、感染症や事故の防止等に関する情報提供や助言が役に立っている。新たに民生委員に委員就任を打診したものの委嘱には至らず、今後の検討課題となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターにも運営推進会議に参加して頂き、助言を受けている。	今年度から運営推進会議に市役所の介護保険の給付担当職員が出席しているほか、事業所の運営に係る懸案事項が出るごとに、介護保険の担当者に相談し助言を受けるなど、顔の見える関係づくりが出来ている。市が委託している医療介護支援センターとの連携も図られており、地域包括支援センター主催のケアマネジメント支援連絡会等の研修にも参加している。	

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時には研修を行い、常に意識を持って業務にあたっている。玄関の施錠については夜間のみ行っている。	毎月1回、職員がメンバーとなった身体拘束廃止委員会を開催し、主にスピーチロックを中心に検討し、事例を上げながらの研修も定期的に行っている。1階、2階ともに入口のドアは職員の目が届かない場合はロックされ、職員が管理し開閉している。	日中に利用者が、ホーム内で自由に出入り出来るような生活環境の整備に向け、当該委員会又は法人支店等で協議検討しながら、改善していくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング時には研修を行い、常に職員の言動や行動が虐待とっていないか振り返り、意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ある程度の知識はあるが、詳しい内容は把握できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしたうえで、契約を交わしている。改定時には文書を交わし説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者御家族様へ、年一回顧客満足度調査を実施し、結果については本社事業所で共有し改善を図っている。	顧客満足度調査結果は、法人本社で集約されているが、事業所運営に関しての意見はこれまでは特になかった。家族等の面会時や介護計画の見直し時期には、家族から希望や要望を確認しているが、運営に関することはほとんど無い。利用者の個別的な希望や要望を頂いた場合には、速やかに対応するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングには、支店から役職者も参加し、状況を把握している。	毎月下旬に開催する職員ミーティングには、ほぼ毎回、法人支店長又は担当課長が参加して職員からの意見等に対応している。日常的な利用者支援の課題については、管理者やユニットリーダーと話し合い改善している。女性職員の離職に伴い男性職員が増加したことから、食事づくりの負担増との意見があり、食事づくりの一部を割愛し食材購入に変更するなど、職員意見を事業所運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	支店役職者も入った個人面談を行い、現状や要望、悩みなどを聞き取り、環境や条件の整備に取り組んでいる。 キャリアアップ制度により、就業条件の向上につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、資格取得について説明し、スキルアップにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内他事業所との研修会参加や、同法人内の他拠点スタッフとの交流の機会を持っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から、ご本人の困りごとや要望を聞き取り、管理者やユニットリーダーを中心に安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時に御家族の困りごとや不安なことを伺い、安心して頂ける関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて入居前のケアマネジャーや関係機関と連絡を取り必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見極め、役割を持った生活が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況がわかる情報を郵送したり、必要時には来書していただき関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地区の方が敬老会のお祝い品を持ってきてくださったり、	事業所には、家族や親戚の他に近所の知人が面会に来たり、正月には年賀状が届く利用者もある。配偶者や子どもだけでなく、孫やひ孫と一緒に面会に来所して、他の利用者と交流する場面もみられる。家族の協力のもと、定期的な外出のほか、お盆や正月に外出や外泊する利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や関係性を理解し、共同で取り組んだり、行事の楽しさを共有できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後(入院や他施設への入所など)も、面会に伺ったり、ご希望があれば相談に応じる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がして欲しい事、したい事などを聞き取り、外出やお手伝いなど、意向に沿って出来る限り対応している。	利用者の入居前の情報は、家族から伺ったり事前訪問で確認しているが、入居後に様々な場面で把握した本人の思いや意向は、申し送りやカンファレンスの際に確認、共有している。入浴時や就寝前のマンツーマンでのケアの場面で思いなどを話されることが多い。管理者は利用者の思いや意向を活かす情報シートの必要性を認識している。	利用者の思いや意向を職員全体で把握する取り組みや、収集した情報を事業所全体で記録管理し、利用者への日常的なケアに活用できる体制づくりに努めるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や入居前の担当ケアマネジャー、サービス事業所からの情報、毎日の生活を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を把握し、カンファレンス等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況やご本人の希望、御家族の要望を共有し、定期的にかんファレンスを行い、介護計画を作成している。	利用者担当職員の意見や介護記録等の情報をもとに、介護支援専門員がモニタリングを行い、介護計画原案を作成し、個別のカンファレンスシートにより職員全員で検討のうえ、家族の要望や医療関係者からの意見を取り入れてプランを作成している。介護計画の見直しは、利用者が安定している場合は6か月ごとに、状態に変化がある場合には3か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、業務日誌の他に、申し送りノートを活用し、情報共有や計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の行動を把握すると共に、発言を出来る限り聴き、様々なサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な範囲で近隣住民やボランティアの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を定期的を受け、結果を御家族に報告している。歯科受診は、入居前のかかりつけ歯科に家族対応で受診している。	月に2回入居者全員が協力医師による訪問診療を受診している。眼科や皮膚科等の専門医受診については、家族の対応としている。毎週、訪問看護ステーションの看護師による一般の健康チェックや皮膚状態の観察を受けるなど、医療連携が整備されている。歯科についても、入居前のかかりつけ医に家族対応で受診しており、受診結果については、家族から口頭で確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問時に入居者の健康状態について相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は医療機関と情報交換し連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度、看取り野方はいないが「重度化した場合における対応にかかる指針」を契約時説明し、書面で取り交わしをしている。	重度化と看取りの体制強化に向け、一昨年に協力医療機関の一本化を図った。現在、看取りまで対応している利用者はいないが、重度化で居室で過ごしている利用者も出てきている。緊急時の対応や重度化、看取りをテーマに、次年度計画的に職員研修を開催する予定にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置、連絡体制を整備するほか、職員研修を行い対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、1回は消防署職員の立会いをお願いしている。 地区の安全マップで避難場所などを確認している。 緊急時の食料と水を備蓄している。	北上市のハザードマップ上で災害指定地域に認定されていないが、火災想定を主に年2回避難訓練を実施している。訓練時、避難した利用者の見守りは、両隣の方々の協力を得ている。これまで実施した訓練のほかに、職員だけの夜間想定訓練や緊急連絡体制の訓練の必要性を管理者は認識している。飲料水、アルファ米、缶詰、ガスコンロ等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や写真はファイルで個別にまとめ管理している。入居者様の写真などの掲載は入居時に予め家族の同意を得ている。常に人生の先輩という気持ちを忘れずに接している。	月1回の職員ミーティングを利用し、「利用者を尊重するということはどういうことか」について、基本的な接遇を含めた研修機会を設けている。日常的には、トイレ誘導時の声かけのタイミングや声の大きさなどに配慮したり、入浴介助時の異性介助に配慮している。利用者の今までの職歴や特技を活かして、事業所内での役割を担って頂くこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望を上手く表現できない方も意向を理解するよう努め、自己決定につなげられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって波がある方も、ご本人の希望に添えるよう出来る限りの対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容での整髪、が家族の協力を得ながら同じような着衣にならないよう声掛けをおこなっている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食のおかずは宅配業者に依頼し配達してもらっている。御飯、汁物、朝食はスーパーで購入し、可能な限り、調理や盛り付けを手伝っていただいている。年に2回は外食の機会を作っている。	誕生日のお赤飯や七夕のそうめん、敬老会の祝い膳、クリスマス会などの行事食には、利用者の好みに応じてノンアルコールビールを提供する等の工夫をしている。外食の前にはお店のメニュー表で食べたい物を選んで戴く。当日は殆どの利用者がボリューム感のある料理を完食している。最近では飲み込み力が低下している利用者も多く、調理形態を細かくしたりとろみをつけることも多いが、美味しそうに見えるような盛り付けも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下状態を考慮し、各々に合った形態で提供している。食事量や水分量の記録を確認しながら不足の方には追加摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声掛けにより実施している。必要に応じて歯科受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、トイレ誘導を行うなど、可能な限りトイレでの排泄介助を行っている。	居室にはポータブルトイレは置かず、重度でオムツ使用者以外は昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。意思表示時の対応のほかに、食後や服薬時または、体の動き等を見ながら職員から声掛けし、トイレ誘導している。タイミングが合わない時には、さりげない介助を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方に水分摂取や運動を促している。また、主治医から処方されている下剤よっての排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同姓介助の希望を考慮した対応や、予定した日時に拒否があった場合などは状況を見て変更対応している。	火曜日を除き、週に2回の入浴としている。季節感を感じる菖蒲湯やゆず湯も行っているほか、入浴を嫌がる利用者には、職員が交代して声掛けしたり、無理強いわせず翌日に切り替えるなど、臨機応変に対応している。入浴中は気分が良く、職員と会話が弾む利用者が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮したり、入居前の生活習慣を把握し、その方にあった睡眠や急速が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬に関する説明書をファイルし、内容を把握している。変更時の申し送りを記載し、伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、できそうなことの把握に努め、各々に適した役割が持てるよう支援している。(調理や盛り付け、編み物、歌等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の支援も受けながら、自宅へ行ったり、食事に出かけたりしている。花見、紅葉狩り、外食に出かけている。気候が良いときは短時間でも近所の公園や地域内を散歩している。	天気が良く、職員が対応可能な時は、事業所周辺の散歩に15分程度出かけ、近隣住民から「ご苦労様」等の声がけも受けている。また、1階ベランダでのお茶会には、2階の利用者も一緒に参加している。毎年春の花見と秋の紅葉狩りには、大型タクシーを借り上げホーム全員で外出している。	利用者の気分転換やストレスの発散に、手ごろで取り組み易い外出は、利用者からも好評を得る活動であり、利用者や家族からの要望もあることから、定期的な外出機会や身近な周辺への散歩を設けるなど、希望に沿った外出支援を提供できることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、自分で支払ったりする方は現在はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が電話を書け、話が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るさやわかりやすさ、温度などに配慮している。 フロアは季節を感じられる装飾を入居者様と一緒に製作し、楽しんでいる。	1階、2階ともに共有スペースは清潔で、採光も良く明るい。中央に二つのテーブルが配置され、座高に合わせ、足を載せる台を足元に置いている利用者もいる。訪問時、クリスマスとお正月を意識した手作りの装飾が沢山飾られ、2階の入口正面には、ユニットの名称に合わせ手作りの大きなスマイルが出迎えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外の場所にも椅子を置き、同じ場所で過ごすのではなく、違った場所で過ごせるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでいただいたり、テレビを持ち込んでいただくなど各々に適した居場所の工夫に努めている。	居室には、エアコン、クローゼット、壁には複数のフックが備え付けられている。クローゼットの収納量が多く、居室はすっきり整理されている。使い慣れた椅子でくつろいだり、複数のぬいぐるみを飾っている動物好きの利用者やひ孫まで揃った家族写真やスナップ写真を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	よ		